

早稲田社会学会ニュース

第65号

2025年 4月28日発行

早稲田社会学会事務局

〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

早稲田大学文学部 社会学研究室内

Tel: 03-5286-3742

E-mail: socio-office@list.waseda.jp

URL : <http://www.waseda.jp/assoc-wss/>

今回のニュースの内容

1. 第77回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ
2. 本年度大会シンポジウムについて
3. 大会一般報告の募集
4. 『社会学年誌』第67号投稿の募集
5. 2025年度研究助成の募集
6. 第46回早稲田社会学会研究例会のお知らせ
7. 入退会者のお知らせ
8. 学会費納入のお願い
9. 事務局よりお願い

1. 第77回早稲田社会学会大会および総会開催のお知らせ

本年度の早稲田社会学会大会および総会は、2025年7月5日（土）に開催されます。2019年以来6年ぶりの戸山キャンパスでの開催を予定しております。

すでにご案内しているとおり今期研究活動委員会では、2024年度～2027年度シンポジウムとして共通テーマ「社会の危機と社会学の危機」を設定しています。昨年度の「『食』を考える」につき、今年度は「セクシュアリティを考える」とします。詳細につきましては、「本年度大会シンポジウムについて」をご参照ください。一般報告などを含むプログラムの詳細につきましては、学会ウェブサイト上にてお知らせする予定です。ご参加方法等、詳細につきましては、追ってご連絡いたします。

事務局では大会での一般報告を募集いたします。報告を希望される方は、「大会一般報告の募集」をご参照のうえ、事務局までお申込みください。

2. 本年度大会シンポジウムについて

日時：2025年7月5日（土） 13:30-17:00

会場：早稲田大学戸山キャンパス 第1会議室 + オンライン

申込：事前申込については学会ウェブサイト上にてお知らせします

テーマ：社会の危機と社会学の危機2025:

セクシュアリティの社会学 —サブカルチャーにおける性の商品化と性的消費

(以下敬称略)

報告者：中村香住（慶應義塾大学）・服部恵典（東京大学）・松浦優（東京大学）

コメンテーター：森山至貴（早稲田大学）

趣旨説明

本年度の研究例会・大会シンポジウムのテーマは「セクシュアリティ」である。社会学におけるセクシュアリティ研究は、広く人間の「性」をめぐる現象をとらえる分野として発展してきた。セクシュアリティという言葉が指すものは、生殖や異性間の性交渉といった事柄にとどまらない。例えば性的マイノリティをめぐる問題はその研究対象の一例である。社会学者が同性愛者やトランスジェンダーなどのマイノリティ当事者の経験に耳を傾け、そうした人びとを周縁化する規範や制度を批判的に分析するなかで、性的マイノリティにたいする社会的な見方の変容も促されてきた。またセクシュアリティ研究は、ジェンダー研究とも重なりあいながら、性の商品化や性的消費、性暴力といった問題にも取り組んできた。このように、セクシュアリティ研究は、多様な「性」にかんする現象をとらえ、それらを適切に分析するための枠組みを刷新しつづけてきたといえる。

今日の社会を見ると、ふたたび「性」をめぐる既存の社会的／社会的枠組みの再考を迫る事態が現れているように思われる。とりわけそれは、サブカルチャーにおける性の商品化や性的消費において顕著である。

一般に、性の商品化や性的消費といったトピックにおいて想定されてきたのは、人間の身体やそれを介した性交渉、あるいはそうした様子を表象する性的コンテンツである。典型的には前者は対面でおこなわれる性的労働、後者はアダルトビデオなどのポルノグラフィが想起されよう。両者はともに、性の商品化や性的消費をめぐる論争の中心であった。

今日、人びとの性の商品化や性的消費の状況は多様化している。例えばかつてポルノグラフィの消費主体は男性がその座を占有すると自明視されてきたが、今では女性が男性や女性を性的客体として消費するという事態は珍しいものではなくなった。また、アニメコンテンツ産業の隆盛化とともに、キャラクターの性的な魅力を強調した商品やコンテンツが商品化され売買されるようになった。こうした中、二次元のキャラクターを性愛の対象とする人びとについての認知も徐々に広がっている。それでも人間を対象としないセクシュアリティへの一般社会の無理解はいまなお強固であり、当事者を抑圧しつづけている。以上の現象は、「推し」というファン実践、またメディアにおける性表現をめぐる法的規制といったトピックとの関連とも結びつきながら益々注目の集まる領域である。

さらに今日の性の商品化や性的消費は、デジタル・テクノロジーとも密接に結びつくトピックである。スマホ利用の定着やインターネット接続のインフラ化、またSNSというプラットフォームが拡大した現代の状況は、個人がその嗜好に合わせた性的コンテンツにアクセスすることを容易にした。また孤立しがちな性的マイノリティを連帯させ、そのアイデンティティの肯定的な再定義を促した。他方、恋愛・出会い系アプリが、性的な取引の場や詐欺の手段として利用されるようになって

たり、オンライン上でおこなわれる時間的・空間的制限のない性的労働における搾取も問題視されるようになってきている。

このように急速に変化する現代社会の状況を踏まえ、本年度の研究例会・シンポジウムでは、サブカルチャーにおけるセクシュアリティについて考えたい。これまでどのような議論が展開され、どんな論点が見落とされてきたのか。性的コンテンツの多様化とマイノリティ、性的労働と消費の変容など、検討すべき点は様々あるが、性の多様性とそれを取り巻くマクロな社会条件を考慮にいれつつ、セクシュアリティをめぐる社会／社会学的認識の再考の場としたい。

(文責：東洋大学 大坪真利子)

3. 大会一般報告の募集

大会午前中(10:00-12:00予定)の一般報告を希望される方は、以下の項目を明記の上、事務局宛にE-mailにてお申し込みください。その際の件名は「大会一般報告申し込み」としてください。

必要事項

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 連絡先(郵便番号、住所、電話番号、E-mailアドレス)
- (4) 題目(副題を別として25字程度まで)
- (5) 内容概略(200～400字程度)

送付先: socio-office@list.waseda.jp

締切: 2025年5月12日(月)12:00AM

※ 『社会学年誌』投稿とは締切日が異なりますので、ご注意ください。

現在早稲田社会学会会員ではない方で、報告を希望される場合は、上記の必要事項とあわせて入会申込書をご提出ください(なお、本年度についてはPDF等のかたちでE-mailにてご提出ください。当面、推薦人の署名捺印は不要とします)。入会申込の受付および申込書フォーマットの入手につきましては、学会ウェブサイトの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。会午前中(10:00-12:00予定)の一般報告を希望される方は、以下の項目を明記の上、事務局宛にE-mailにてお申し込みください。その際の件名は「大会一般報告申し込み」としてください。

4. 『社会学年誌』第67号投稿の募集

本年度の『社会学年誌』に投稿を希望される方は、6月30日(月)23:59までに以下の項目を事務局宛にE-mailにてお送りください。メールの件名は「『社会学年誌』投稿申込」としてください。

- (1) 氏名
- (2) 所属
- (3) 郵便番号、住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス

- (4) 題目（副題を別として25字程度まで）
- (5) 内容概略（200～400字程度）
- (6) 電子版公開可否

『社会学年誌』原稿の提出締切は、8月末日です（紙媒体の原稿の郵送は不要となりましたので、上記事務局のE-mailに添付ファイルとしてお送り下さい）。申込書提出後の題目、内容の大幅な変更は認められませんのでご注意ください。また、申込後に投稿を辞退される場合は、8月15日（金）までに事務局宛にその旨を必ずご連絡ください。なお、分量、書式その他、投稿規定については、学会HPあるいは『社会学年誌』の最新号をご参照ください。現在早稲田社会学会会員でない方で投稿をご希望の方は、上記の申込とあわせて入会申込書をお送りください。入会申込の手続きまたは申込書の入手方法につきましては、学会HPの「入会案内」をご覧くださいか、事務局までE-mailでお問い合わせください。

編集委員会では、第66号から、掲載された論文を『社会学年誌』の刊行から一定期間を経て「早稲田大学リポジトリ」にてオンライン公開する方向で現在調整を進めています。電子版公開を希望されない場合は、必ずその旨を明記いただくようお願いいたします。

5. 2025年度研究助成の募集

これまで当学会に寄せられた寄付金により、寄付者のご意思を尊重し、研究活動の助成を行ってきました。その結果、2025年度助成可能な残りの額は50,523円となりました。理事会で慎重に審議し、今年度は、この額を上限として募集を行います。決して十分な額とは言えないと思いますが、寄付者のご意思を踏まえ、少しでも会員各位の研究助成に役立てられることを願っています。

- ・助成対象：早稲田社会学会の発展に寄与する研究活動
- ・助成額：50,523円を上限とする

助成を希望される方は事務局までE-mailでご連絡ください。件名を、「研究助成申請希望」として下さい。申請書用紙は、早稲田社会学会ウェブサイト「早稲田社会学会研究助成」「申請手続き」からダウンロードしてください。申請書の提出締め切りは、5月12日(月)9:00AM（事務局宛 E-mailのみ有効。郵送不可）です。

なお、募集は、「早稲田社会学会研究助成取り扱い要領」の規定により、「助成の直前の年度まで継続して2年以上の会員歴がある」方が対象となります。また、研究助成を受けられた方には、学会大会一般報告(または学会誌投稿)により、その成果を報告していただくようお願いいたします。また、この趣旨に賛同される方からのご寄付も募っております。寄付については事務局にお問い合わせ下さい。

6. 第46回早稲田社会学会研究例会のお知らせ

日時：2025年5月24日（土）14:00－17:00

会場：オンライン開催

参加費：無料

申込：2025年 5月19 日（月）12：00AMまでに、以下のGoogleフォームよりご登録ください。

後日参加方法について連絡いたします。

<https://forms.gle/s29GbDPwimAL2K8z5>

テーマ：現代におけるセクシュアリティ研究の多様性と諸論点

報告者：

志田哲之（東京女子大学）「セクシュアリティ研究の『これまで』から『これから』を考える
－社会学を対象としての試論－」

守如子（関西大学）「性表現と性的欲望」

司会：大坪真利子（東洋大学）

7. 入退会者のお知らせ

入会者 なし

退会者 理事会において以下3名の退会が承認されました（敬称略）。

2024年12月21日理事会

柄本 三代子（東京国際大学）

佐藤優子（東京工業大学）

横田 尚俊（山口大学）

8. 学会費納入のお願い

今年度の学会費をお振り込みくださいますようお願いいたします。別途、郵便にて「郵便振替払込書」をお送りいたします。

年会費：一般会員 5,000円 学生会員 3,000円

口座番号：00100-3-38020（郵便振替）

加入者名：早稲田社会学会

複数年度分の会費を納入される場合、および転居・異動などがあった場合には、別途メールにてその旨をお知らせください。なお、年会費の納入記録についてのお問い合わせなどがありましたら、事務局（socio-office@list.waseda.jp）までご連絡ください。

9. 事務局よりお願い

■事務局への連絡はできるだけメールでお願いいたします。

コロナ禍以後、事務局運営上の実務の多くをオンラインで行っております。学会事務局へのご連絡等は、できるだけ郵便でなくメールにてお願いいたします。郵便の場合、対応が大変遅れる可能性があります。いろいろとご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

■学会費の納入にご理解とご協力をお願いいたします。

近年、学会費納入率が低下しており、学会運営に支障をきたしております。特に2020年度以後、コロナ禍で、学会費の納入状況が大変低下しました。会員の皆様には、引き続き、早稲田社会学会活動にご理解いただき、会費を納入いただけますようお願いいたします。

以上